

<核医学検査における医療被ばくについて>

社会医療法人 製鉄記念八幡病院

【核医学検査】

核医学検査は、臓器の機能や形態を調べるために放射性同位元素（RI：Radio Isotope）を静脈注射し撮影する検査です。使用する薬の量が少量（1～3ml程度）であり、副作用もほとんど起きません。

【被ばくによるリスク】

使用する薬剤の量が少ないため放射線被ばくも少なく、通常の投与量では身体や臓器に障害を及ぼすことはありません。

参考までに、当院の主な検査の放射線被ばく量を表1に示します。なお、予約時間（注射時間）によって実際に患者さんに投与する量が変わってくるため、実効線量の値に幅があります。

表1 当院の主な核医学検査の放射線被ばく量

検査名	投与量(規格)[MBq]	実効線量[mSv]
骨シンチ(^{99m}Tc -MDP)	740	4.3～5.0
脳血流シンチ(^{99m}Tc -ECD)	600	3.5～5.5
脳血流シンチ(123I-IMP)	111	3.1～3.8
ドパミントランスポータシンチ (^{123}I -DatScan)	167	4.6～5.0
副甲状腺シンチ(^{99m}Tc -MIBI)	370	4.2～4.7
負荷心筋シンチ($^{201}\text{TlCl}$)	111	15.8～16.0

2021年4月1日作成